

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	茨城県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	麻生町立小高小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	1	1	1	2	8	12
児童数	21	25	23	28	28	25	8	158	

研究の概要

1. 研究主題

個を生かす指導・評価の在り方 ～多様な指導法と教材開発を通して～
-------------------------------------

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3～6年生 国語・算数 「確かな学力」のベースとなる「基礎・基本」の理解の状況に差が出やすい中学年から、個に応じて継続的にきめ細かに指導するため。</li> <li>・ 3～6年生 理科 理科専任教員の配置をし、どの学年も担任とのTTを可能にして、児童の理科への興味・関心や科学的思考を段階的に伸ばすため。</li> </ul>
---

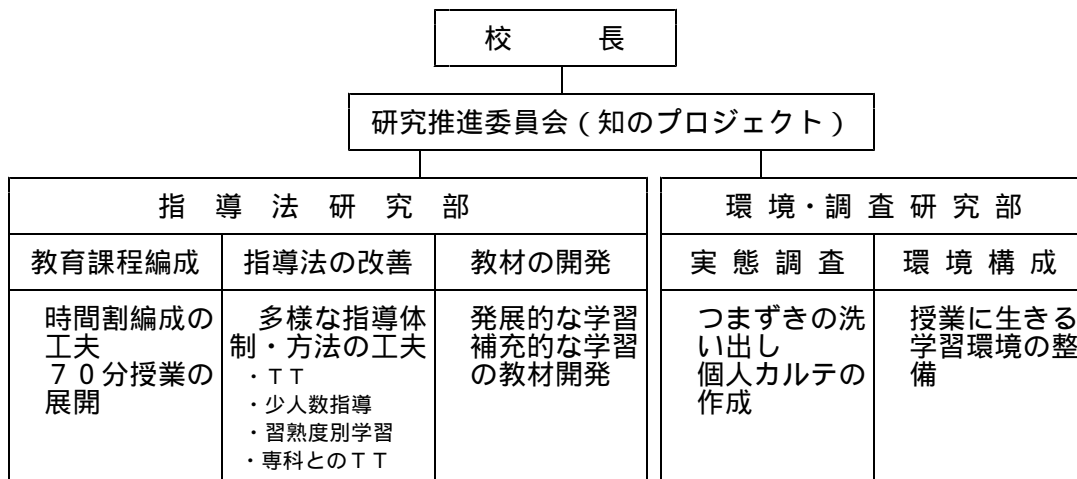
(2) 年次ごとの計画

平成15年度	テーマ 個を生かす指導・評価の在り方 ～多様な指導法と教材開発を通して～ 研究の見通し (1) 教育課程の編成を工夫し、指導体制の充実を図れば、70分授業やティーム・ティーチングによる多様な学習が可能となり、主体的に問題解決に取り組む態度・能力が身に付くであろう。 (2) 発展的学習や補充的学習の教材を開発することにより、理解や習熟の程度に応じた指導の充実が図られ、自ら学ぶ意欲・態度が身に付くであろう。 研究の内容・方法 (1) 時間割編成を工夫し、ロングの時間(70分授業)の実践研究をする。 (2) 国語科、算数科、理科・生活科において、多様な指導法の工夫(TT, 少人数指導, 習熟度別学習, 理科の専科制)の実践研究をする。 (3) 発展的な学習・補充的な学習の教材の開発をする。
--------	---

平成16年度	テーマ 個を生かす指導と評価の在り方 ～多様な指導法の充実と教材開発を通して～ 研究の見通し (1) 指導体制の充実を図り、個を生かした指導方法を工夫すれば、70分授業や複数の教師による多様な学習が可能となり、主体的に課題解決に取り組む態度・能力が身に付くであろう。 (2) 発展的学習や補充的学習の教材や習熟度別学習のための教材を開発することにより、理解や習熟の程度に応じた指導の充実が図られ、確かな学力が育つであろう。 研究の内容・方法 (1) ロングの時間(70分授業)の実践研究をする。 (2) 算数科、理科において、多様な指導法の工夫(TT, 少人数指導, 習
--------	---

- 熟度別学習，理科の専科制)の実践研究をする。
- (3) 算数科の習熟度別学習の教材作りと理科の発展的な学習・補充的な学習の教材の開発をする。
- (4) 教師による評価・児童による評価の在り方を実践研究する。

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

- (1) ロングの時間の実践について  
国語科では，取材活動，調べてまとめる活動，伝え合う学習で時間を有効に使い，児童が自分の考えを生かし課題に意欲的に取り組むことができた。また，70分を基礎的な学習と単元の学習に分割して実施した場合は，言語事項の定着の時間に活用できた。  
算数科では，体験的な活動を取り入れた学習や考え方を発表・検討した後も練習問題の時間が確保でき，基礎的・基本的内容の定着に役立った。また，習熟度別学習や発展的な学習・補充的な学習の時間が十分とれ，個を生かす指導の充実が図れた。
- (2) 指導体制の工夫について  
TTを導入し複数の教師で指導にあたることにより，児童を多面的に指導・評価することができた。そのため，児童の学習意欲が高まり，基礎的・基本的な内容の定着が図れた。  
算数科において習熟度別学習を実施することにより，児童一人一人を生かし，理解や習熟の状況に応じた適切な指導・評価の充実が図れた。  
理科専任教員と担任が協力して指導にあたることにより，一人一人の実態に応じた支援や評価ができるようになった。課題別学習や発展的な学習・補充的な学習に分かれて学習する時は，コースごとに教員がつくことができ，個に応じた指導の充実が図れた。
- (3) 教材開発について  
発展的な学習や補充的な学習など多様な指導法に対応できる教材開発に複数の教師で取り組み，指導に活用することができたので，教師の教材に関する認識が高まった。

2. 今後の課題

ロングの時間の弾力的な活用を図る教育課程の工夫  
 ティーム・ティームティキングの効果的な指導の在り方  
 教師による評価・児童による評価の工夫・改善  
 発展的な学習・補充的な学習や習熟度別学習の教材の開発

学力等把握のための学校としての取組

「学力診断のためのテスト」の分析  
全学年までの計算・漢字の学力調査（4月）  
全学年まで、当該学年の計算・漢字の学力調査（3月）  
学習に関する意識調査（7月・12月）

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

研究発表会 日時 平成15年11月21日（金）午後1時15分～  
場所 本校  
麻生町立麻生小学校 体育館  
対象 県内教職員  
本校保護者  
地区理科広報誌へ発展的な学習・補足的な学習の指導案掲載  
教育課程研究集会で理科の実践発表

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】     15年度からの新規校                      14年度からの継続校
- 【学校規模】                      6学級以下                       7～12学級  
   13～18学級                      19～24学級  
   25学級以上
- 【指導体制】                       少人数指導                       T・Tによる指導  
    一部教科担任制                      その他
- 【研究教科】                       国語                      社会                       算数                       理科  
   生活                      音楽                      図画工作                      家庭  
   体育                      その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】     有                      無